

## さつきバスの新しい運行体制の基本的考え方について

## 輸送の目的

- ・ 対象・・・高齢者、交通弱者
- ・ 主な行き先・・・病院、店舗、老人福祉センター、駅など

## デマンド方式を取り入れた運行形態について

運行形態	ねらい	予測される課題
定時定路線 + 区域デマンド	<p>【定時定路線】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の多いルートで、一度に大量の乗客を輸送できる。</li> </ul> <p>【デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的利用者の少ない区域で、需要に応じて効率よく運行できる。</li> </ul>	<p>【定時定路線、デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行形態が混在していて利用者にとって分かりにくい。</li> <li>・ 行き先によって乗換えが多くなる。</li> </ul> <p>【デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区域を分けることにより、配車が非効率になる。</li> <li>・ タクシーや路線バスと競合するおそれがある。</li> <li>・ 需要が集中すると対応できなくなる場合がある。</li> <li>・ 全ての需要に対応するために、車両・運行距離・運行時間が嵩み、経費が膨らむ場合がある。</li> </ul>
定時定路線 + 全域デマンド	<p>【定時定路線】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の多いルートで、一度に大量の乗客を輸送できる。</li> </ul> <p>【デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的利用者の少ない区域で、需要に応じて効率よく運行できる。</li> <li>・ 1回の乗車で目的地に行くことが出来る。</li> <li>・ 区域を分けないため、効率的な配車を行うことが出来る。</li> </ul>	<p>【定時定路線、デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行形態が混在しているが、工夫で形態より分かりやすく整理できる。</li> </ul> <p>【定時定路線】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デマンドと競合し、機能しない可能性がある。</li> </ul> <p>【デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タクシーや路線バスのほか、鉄道とも競合するおそれがある。</li> <li>・ 需要が集中すると対応できなくなる場合がある。</li> <li>・ 全ての需要に対応するために、車両・運行距離・運行時間が嵩み、経費が膨らむ場合がある。</li> </ul>
市内全域 デマンド	<p>【デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的利用者の少ない区域で、需要に応じて効率よく運行できる。</li> <li>・ 1回の乗車で目的地に行くことが出来る。</li> <li>・ 区域を分けないため、効率的な配車を行うことが出来る。</li> <li>・ 定時定路線の経費をデマンドに集中することが出来る。</li> </ul>	<p>【デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タクシーや路線バスのほか、鉄道とも競合するおそれがある。</li> <li>・ 需要が集中すると対応できなくなる場合がある。</li> <li>・ 全ての需要に対応するために、車両・運行距離・運行時間が嵩み、経費が膨らむ場合がある。</li> </ul>



区域デマンド運行では、目的地に複数回乗り継いで行く場合に複数の事前予約が必要となり、予約が煩雑で行程が分かりにくいと考えられる。

デマンド運行は鉄道・路線バス・タクシーと競合するおそれがある。(できる限り既存の公共交通と補完しあうかたちが望ましい。)

デマンド運行の場合は、利用人数と乗合率、配車台数等によって、運行本数等のサービス水準や運行経費が大きく変わるため、適正な運行方式やサービス水準を設定する必要がある。

(現在市が支出する運行補助金の範囲内で新しい運行体制を考える。)



### デマンド運行の実証実験(案)

市内の一部地域で実施

予め定められたルートおよびダイヤはなく、実験地区内のデマンドバス停から実験地区外の定時定路線バス停(中心市街地の一部 例: 可児駅や市役所、病院など)を事前予約に基づいて運行する。(図4 参照)

#### 【目的】

現在のさつきバス定時定路線方式との比較(利用者数、経費、利便性)

鉄道、路線バス、タクシーに与える影響の検証

ピーク時の輸送量、必要車両数の検証

#### 【実施地域】

今渡地区、川合地区、土田地区、中心市街地の一部

休止する路線...川合土田線(利用者数が少ない路線)

地区内で名鉄広見線が運行されている。

大森地区、桜ヶ丘地区、中心市街地の一部

休止する路線...大森桜ヶ丘線(利用者数が比較的多い路線)

地区内で東鉄路線バスが運行されている。

#### 【実施期間】

3か月(平成21年度、2地区同時)

#### 【今後の調整等】

- ・路線バス、タクシー事業者との調整
- ・住民へのPR(自治連合会など)
- ・法的手続き(岐阜運輸支局)...3か月程度要する。
- ・運行準備(車両、バス停、配車の仕組みなど)